

CONTENTS

- 1 目次・編集方針
- 2 理念体系

プロローグ

- 3 京急グループが大切にしている考え方
- 5 社長メッセージ

京急グループの価値創造

- 11 歴史とともに培われた京急グループの強み
- 15 価値創造モデル
- 17 重要課題と創造する社会的価値

京急グループ総合経営計画

- 19 経営計画体系
- 21 沿線地域のさらなる活性化に向けて
- 24 「移動」と「まち創造」の2つのプラットフォームによる価値創造に向けて
- 27 中期経営計画の進捗(経営戦略室長メッセージ)

事業別概況

- 31 交通事業
- 33 不動産事業
- 35 レジャー・サービス事業
- 37 流通事業
- 39 その他の事業

価値創造を支える基盤

- 41 サステナビリティに対する考え方
- 42 環境への取り組み
- 47 安全輸送確保への取り組み(鉄道事業)
- 49 人財への取り組み
- 53 地域社会の発展と共生への取り組み
- 55 コーポレートガバナンス
- 61 コーポレートガバナンスを推進するマネジメント体制
- 65 社外取締役座談会
- 69 リスク管理
- 72 コンプライアンス

財務・会社情報

- 73 連結経営指標の推移
- 75 会社概要/株式情報
- 76 グループ会社一覧

編集方針

本統合報告書は、京急グループが2035年度に目指すべき将来像である「長期ビジョン」の実現に向け、ESG経営を軸とした経済的・社会的な価値創造への取り組みを、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまに広くご理解いただくことを目的として発行しています。また、本統合報告書を通じたステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションにより、さらなる企業価値の向上を目指します。

報告対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日
(一部取り組みについては、それ以前のもの、最新の内容も含んでいます。)

報告対象組織

京急電鉄を中心に京急グループ46社

発行時期

2023年11月

ガイドライン

本統合報告書は、以下のフレームワークおよびガイドラインを参考にしています。

- ・IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」
- ・経済産業省「価値協創ガイドライン」
- ・GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」
- ・環境省「環境報告ガイドライン2018年版」
- ・TCFDコンソーシアム「気候関連財務情報開示に関するガイダンス3.0」



将来の見通しに関する注意事項

将来の見通しに関する記述は、本統合報告書作成時点における当社の見解であり、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績等は、リスクや不確実な事象によって当社の見込みとは異なる可能性があることにご留意ください。

都市生活を支える企業集団として、
グループの総合力を発揮し、
新しい価値の創造と社会の発展に貢献します。

グループ理念

- 経営理念**
- ・京急グループは、都市生活を支える事業を通して、新しい価値を創造し、社会の発展に貢献する
- ・京急グループは、伝統のもとに、創意あふれる清新な気風をもって、総合力を発揮し、社業の躍進をめざす
- ・京急グループは、グループの繁栄と全員の幸福との一致を追求する

- 行動指針**
- ・安全・安心を最優先し、感謝と誠意をもって、顧客の信頼を獲得しよう
- ・たえず研鑽し、進取の精神をもって、可能性に挑戦しよう
- ・誇りと責任をもち、相互の信頼を深め、仕事に取り組もう

サステナビリティ基本方針

京急グループは、グループ理念のもとで、「社会の持続的発展への貢献」と「京急グループの持続的発展」のよりよい循環を目指します。

- テーマ**
- ・人・社会・地球にやさしく持続可能な都市生活を創造します。
- ・多様な人財が活躍する企業を実現します。
- ・全ステークホルダーと適切な協働を図り、コーポレートガバナンスの持続的な強化を図ります。

京急グループ統合報告書2023のポイント

本統合報告書では、2023年度を最終年度とする中期経営計画の進捗や今後の見通し等についてご説明するほか、「移動」と「まち創造」の2つのプラットフォームによる価値創造をさらに推進すべく新設した「新しい価値共創室」についてご紹介しています。また、価値創造を支える基盤である人財に関する開示内容を拡充したほか、初めてとなる社外取締役座談会を開催し、企業価値のさらなる向上に向けて客観的なご意見をいただきました。

- ・中期経営計画の進捗 ▶P.27～30
- ・「新しい価値共創室」の新設 ▶P.25～26
- ・人財への取り組み ▶P.49～52
- ・社外取締役座談会 ▶P.65～68

理念体系

PHILOSOPHY